

第8回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
市民公開講座

“AYA世代と共に社会を創る” そのために

～患者・家族・支援者の本音をわかちあう～
ZINE作家の実践から考える



2026.
6/12(金)
19:00-20:30

Webライブ配信

参加費無料

29歳で流産からの希少がんの治療を経験した ZINE 作家の藤田理代さんは、治療の旅路で患者として感じたことや体験を丁寧にみつめ、ZINE (ジン) という小冊子で綴り共有したり、病院や地域で ZINE をつくる移動アトリエをひらきながら、患者・家族・支援者が立場を超えてそれぞれの気持ちや体験をわかちあう場をひらく活動を12年続けてこられました。

ご自身の体験や、依頼のあったご家族や支援者一人ひとりの想いを丁寧にきき、言葉や写真とともに手製本に綴じてゆく藤田さんの作品たち。どのような想いやプロセスで体験をわかちあってこられたのかを伺いながら、本学術集会のテーマでもある“AYA 世代と共に社会を創る”ための手がかりにもなる、“それぞれの本音をわかちあう”というプロセスについて、みなさんで共に考える時間にできたらと思います。お立場に関係なく、ご自身の人生で感じてこられたことを見つめて形にしたいと考えている方もご参加をお待ちしています。

講演者プロフィール



ZIINE 作家。29歳で希少がんを経験し「大切な記憶」を綴じる ZINE (手製本) の制作をはじめ。病院や地域で「記憶のアトリエ」という本づくりの移動アトリエをひらきながら、患者や家族、医療者がそれぞれの想いを表現し、わかちあうきっかけづくりを続けている。

- ▶ 連載「まなざしを綴じる」ZINE という表現のかたち (「教養と看護」日本看護協会出版会)
- ▶ michi-siruve Web <https://michi-siruve.com/> (藤田さんの ZINE のご活動)

開催概要・お申し込み方法

日 時：2026年6月12日(金) 19:00～20:30 ※Webライブ配信

参加費：無料

申込方法：URL もしくは QR コードよりお申込みください

U R L：<https://procomu.jp/ayaken-cong8/public.html>

主 催：第8回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会

運営事務局：株式会社プロコムインターナショナル

E-mail ayaken-cong8@procom-i.jp



～患者・家族・支援者の本音をわかしあう～

ZINE作家の実践から考える

～AYA世代の患者・家族・支援者の“本音をわかしあう”～

その具体的なプロセスについて、いくつかの作品や病院や地域での取り組みをご紹介します。一人ひとりが抱える「いえなさ（言えなさ・癒えなさ）」を丁寧にきき、それぞれの本音をわかしあいながらともにつくる手がかりを一緒に考えましょう。

1 体験を言葉にする



AYA世代でがんを経験した患者として治療の旅路で感じたことや体験を綴った作品や、緩和ケアの先生との共同制作や展示を通して、中々言葉にできない患者の本音を表現し、他者とわかしあう過程で感じたことを紹介します。

2 周囲とわかしあう



病院や地域で、医療や福祉の専門職の方々と開催してきたZINEづくりの移動アトリエ「記憶のアトリエ」の実践を通して、患者・家族・支援者が立場をこえて自分を見つめ、わかしあう時間の中で感じたことを紹介します。

3 ともにつくる



A世代でがんを経験した患者さんの“いつも”や“ふつう”を、医療や教育などそれぞれの専門性で見守り支えた14名の専門職とご家族の寄稿文で紡いだ作品について、制作の過程や立場をこえたわかしあいから感じたことを紹介します。

市民公開講座で紹介するZINEは、学術集会会場内でもご覧いただけるように展示を予定しています。学術集会へのご参加もお待ちしております。

第8回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会

AYA 世代と共に社会を創る ～AYA 世代がつなぐ新しい時代～

2026年6月13日（土）・14日（日） 国立がん研究センター中央病院 築地キャンパス 研究棟

この10年間で、AYA世代がんに関する多くの研究が行われ、AYAがん患者・経験者の悩みや困難が明らかとなり、支援体制の整備や治療開発が進められてきましたが、実際に一人ひとりのAYA世代に十分な支援が届いているのでしょうか。さまざまな取り組みが進められる一方で、地域格差、経済格差、臨床試験の障壁、長期的な健康管理、10代の支援、マイノリティーの人々への支援など、解決すべき課題が依然として残っています。

このようなAYAがん患者・経験者の生きづらさを軽減していくためには、AYA世代を支えるだけでなく、AYA世代を取り巻く社会全体の変化が求められます。第8回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会では、AYA世代と共に新たな社会を描き、一人ひとりが自分らしく生きられる新しい時代を創造していくことを目指し、様々な課題を取り上げ、社会に発信するきっかけとしていきたいと考えています。

大会長 富岡 晶子（千葉大学大学院看護学研究院）
副大会長 一戸 辰夫（広島大学病院血液内科）
楠木 重範（遊育園こどもクリニック）
里見絵理子（国立がん研究センター中央病院）